

# ここが問題！リニア新幹線

リニア新幹線NEWS No. 25  
2014. 10. 11発行

リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会  
HP : <http://web-asao.jp/hp/linear>

## リニア工事の見切り発車？川崎市内各所でボーリング調査



JR東海は、使用申請を出した市有地でのリニア新幹線工事のためのボーリング調査を始めた。いずれも大深度トンネルルートや立坑予定地周辺の公園や市道脇で、申請は5箇所だが、その他企業用地でも行われている。調査や測量などは工事実施計画が承認されてから行うべきであり、それを考えず早く着工したいという、JR東海の前めりの姿勢を示すものである。これまでの住民無視のやり方と同じで、周辺地域への説明は一切ない。左に写真は、田園都市線宮前平駅に近い宮前子ども公園の一角に設けられた工事用作業所で

白いシートで囲われ、上にボーリング用の支柱が突きだしている。JR東海が川崎市に申請を出した調査地点のうち3か所は子供が遊ぶ公園や市営団地の敷地内であり、申請以外でも等々力緑地内で過去の調査孔の作業が行われている。宮前こども公園の作業所には下の写真にあるような工事内容を示す表示が掲示されているが、JR東海の文字は無い。(写真は鈴木祥宣さん=会員)

(終面に調査関連記事あり)

### 川崎市は沿線市民の立場でJR東海に説明会の開催を求めよ・・・まちづくり委員会でリニア陳情が全会一致で趣旨採択(10月7日)

リニア新幹線を考える麻生・多摩の会、宮前の会、中原高津の会は8月22日に川崎市議会議長に対し以下の趣旨で、JR東海が沿線地域で小単位のリニア説明会を開くよう市に主体的役割を求めた陳情を市議会議長あてに提出した。この陳情について10月7日、まちづくり委員会で審議が行われた。

①JR東海は、予定ルートの両側200m以内に居住する住民に対し説明会を開くこと。②説明会の通知は新聞チラシ以外に、ポスティング、町会回覧、郵送などを検討してできるだけ多くの住民に告知すること。③説明会は町会単位、自治会単位とすること。④説明会は、できるだけ多くの住民が参加しやすい曜日、時間に関すること。⑤非常口と大深度トンネル工事について、住民生活への影響について分かりやすく説明すること。(以上陳情175号)

委員会では、佐野仁昭(共)、猪股美恵(無)、坂本茂(自)ら委員が積極的に発言した。市側はまちづくり局の金子督局長や同局交通政策室の藤倉茂起室長らが出席、陳情の説明や答弁の多くは交通政策室のリニア担当・蔵内正之鉄道交通対策担当課長が行った。審議の中で佐野委員は「事業説明会の前に、市内に約束の事務所をつくるよう指導せよ」と求め、猪股委員は「これまでの説明会ではリニアに対する市民の不安に答えていない。早急に積み残しの問題について説明会をJR東海に開かせるよう」求め、市は市民の立場に立って指導力を発揮すべきと述べた。金子局長は「危機感を持って住民の声をJR東海に伝える」と答えた。委員会は最後に全会一致で陳情175条を趣旨採択した。(傍聴20人)



## 相次いでリニア住民説明会実施・・・・・・・・

### 麻生区片平で住民集会～「片平の立坑を考える」～9月20日

9月20日(土)13:30～麻生区の片平会館で開かれたリニア沿線住民集会「片平の立坑を考える」には、地元を中心に65名の市民が参加しました。

町田市に隣接する片平地域では、川崎市に5カ所建設予定の立坑の一つが鶴川総合運動場に計画されています。またJR東海は、環境影響評価準備書や評価書では立坑から尻手黒川線の延長である県道上麻生連光寺線まで工事用の取り付け道路を計画しています。このためリニア建設の工事が始まれば、10年以上に及ぶ工事期間中は、この静かな住宅地や農園を立坑から排出される残土を積んだ工事車両が走りまわり、騒音や振動、交通渋滞、大気汚染など生活環境の悪化が懸念されています。

片平地域での住民集会は、「リニア新幹線を考える麻生・多摩の会」が企画し、2000枚以上のチラシの地域配布で呼びかけたものですが、この種の集会には初めて参加する方がほとんどで、「東京神奈川連絡会」の代表・天野さんや、「麻生・多摩の会」の世話人・伊藤さんの話に熱心に耳を傾け、また率直な質問や意見を交換しました。JR東海が住民への丁寧な説明を怠っている中で、リニアの問題を身近に考える貴重な機会を提供できました。(✓熱心に説明を聞く参加者～片平会館)



### 「リニア新幹線と等々力非常口」～9月27日

9月27日(土)午後2時から、川崎市中原区の川崎市民ミュージアムで、中原・高津の会主催で「リニア新幹線と等々力非常口」というテーマで、等々力地域を中心とする住民の方々に対する説明会が開かれました。JR東海から説明が無いこともあって、等々力のENEOS野球部グラウンドに建設が予定されるリニア非常口について、具体的な工事内容などについて情報を提供することが必要でした。説明会には21名の住民の方々を

含め32名が参加し、連絡会の天野さんの説明に熱心に耳を傾けていました。若い方も参加し、説明を聞いてリニア工事が住民にとって迷惑であり、またリニアは必要ないとの意見が聞かれました。また、町内会の幹部からは「リニア非常口のために土地を提供するENEOSは住民に対し説明をする責任がある」という声があり、会としてもそのような場を申し入れる必要があると思いました。また、住民の一人から「等々力緑地内でまたボーリング調査が行われている」という情報も提供されました。(終面に実地調査結果)



(住民は工事の影響が心配～市民ミュージアム)

### JR東海の意のままに「リニア宣伝番組」放送 = TBSテレビ「夢の扉」10月5日(日)18:30～

中井貴一、向井理、坂口憲二がナビゲーターを務める番組。この回は番組10周年の一環としてリニアを「夢の超特急」として取り上げた。その開発秘話を独占公開として、JR東海リニア開発本部長・白國紀行氏をリニアのガイド役として登場させた。氏の案内で向井理が実験線に試乗し時速500kmを体験。乗車口は空港のボーディングと表現。しかし、乗車口周辺には青い塗装がなされた磁界のシールド板がバッチリ映っていた。本部長は「リニア開発で最大の問題は空気抵抗と騒音だったとして、抵抗を防ぐためL0系では先頭車両の(3ページ下に続く)

## 残土と1600台のリニア工事車が地域を分断、子どもの安全を脅かし、地下水を枯らす：相模原立坑、車両基地予定地見学ツアー～西村光子（会員）

9月30日、リニア新幹線を考える相模原連絡会の案内で立坑ツアーに参加しました。行先は実験線のある山梨に近い立坑予定地と車両基地建設予定地です。

山道を車でかなり上がったところにある牧馬篠原地区は、ギフチョウの生息地として有名です。その看板が立った横の沢の淵に立坑を掘るといいます。蝶類研究者が反対しています。また、この近くにある菅井簡易水道組合の水源・配水池が、山梨実験線が工事をしていた昨年3月～5月、水位が下がるということがありました。当然この地区も危ないと、8月、自治会として相模原市に「水が涸ればきちんと補償するよう」要望書を提出したという。



(山梨実験線延伸工事で枯れた相模原市菅井の水源池)

菅井地区の大羽橋がかかっている川は残土で埋め立てられ、中に細い排水路が設けられているだけの薄の生い茂る原っぱになっています。そこに立坑を造るのでびっくりしました。緩い地盤に大きな工作物を造って、山や川に影響がでないのでしょうか。リニアの車両基地建設予定地の鳥屋地区は立退き という深刻な問題が起こっています。山間の斜面に約80haの基地を作ります。裾は15mのコンクリートの土台、その上に

15mの土盛りをするので、30mの要塞の横で暮らすことになります。それを地元の人々は「北は監獄?! 南は超益地?!」と言い表していました。JR東海は初めは40戸のうち38戸に立ち退きを要請していたが、最近出してきた地図ではもう少し立ち退きの対象は減るようでした。自治会の中には賛成も反対もあるけれど、9月3日自治会として反対を決め、自治会会館の庭に「自然と地域を破壊するリニア車両基地絶対反対！谷戸自治会」の看板を立てたということです。車両基地には小・中学校が隣接しています。隣接というより車両基地の中に食い込んでいます。工事中騒音・振動に悩まされ、また1日最大1600台のダンプカーが走る計画で、子供の安全が脅かされないか心配と話されていた。



新幹線の車両基地

### 相模原市鳥屋のリニア車両基地

茨菰山（ほおずき山511m）の麓にある鳥屋小学校の上部山腹に長さ2km、最大幅350m、広さ50haのリニア車両基地が建設される計画。建設残土の多くは基地の造成に使われ、下部には高さ30mの擁壁が設けられる。建設によって約40戸が立ち退きを強いられ、地域が分断されるほか、工事車両の走行で児童・生徒の安全が脅かされる。また、地下水や動植物の生息に大きなダメージを与える。JR東海は、計画の詳細な内容や具体的な環境保全対策を地元の説明しておらず、住民の不安は高まっている。

（2ページから続く）ノーズを16mにしたとか、トンネル出口に緩衝孔を設けて衝撃音を「多少減らすことができる」などと説明のテロップを流した。さらに本部長から「超電導リニアは安定した電力を供給することで10cm浮上させることができ、地震の際にも安全な走行が可能である」と説明させ、他国の常電導リニアに比べ、日本の超伝導リニアは圧倒的な技術力の差がある」と自賛。これが「環境対策」とされ、事故時の安全対策や、工事による環境負荷の対策には一切触れず、番組制作側の勉強不足、知識不足から、リニア礼賛の番組になってしまった。また、NHKBSプレミアムも10月4日（土）21:00～23:00に特番「まるごと新幹線～夢の50周年徹底解剖」を放送。リニアについては3分ほど、開発の歴史の紹介とスピードを強調「新たなスタートを迎えるのが楽しみ」とコメント。

# 中原区等々力ではボーリング孔の撤去作業が行われていた



等々力緑地ふるさとの森で一昨年、環境調査のためにボーリング調査が行われ、調査後ボーリング孔にフタをしたまでは良かったが、そこから地下水がしみ出しつつづけていた。連絡会でJR東海や市に対し、「後始末をちゃんとすべきだ」と言ってきた。9月下旬からようやく問題のボーリング調査坑の撤去作業が行われている。囲いの表示には「水位観測井の撤去を行います。10月中旬まで」の表示が張られていた。前回調査地点2カ所でボーリング調査が再開される様子は見られなかった。(左写真は10月10日撮影＝撮影者天野)

10月13日(土)アーサー・ピナードさん講演会に参加をお願いします！閉会後は青山通りをパレードします。「STOP!リニア」「リニアは要らない」「南アルプスの自然を守れ」「リニア電磁波はごめんだ」などのボードを用意して下さい。

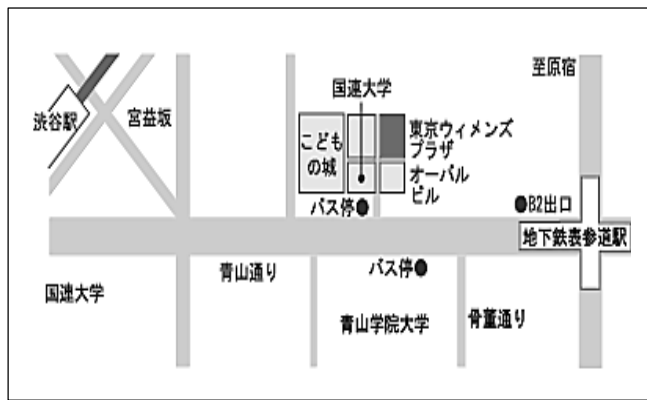


アメリカ・ミシガン州出身。詩人。詩集やエッセイ集で文学賞受賞。

## アーサー・ピナード講演会

10月13日(月)13:30~16:30  
東京ウイメンズプラザホール  
参加費1,000円

主催:リニア・市民ネット 042-565-7478



## リニア着工を認めるな！院内集会

10月17日(金)13:30~16:30

参議院議員会館B108会議室

主催:リニア新幹線沿線住民ネットワーク  
公共事業改革市民会議

リニア新幹線の着工に向けて認可が迫っている状況にあり、計画の中止を求めて、決意を明かにする。



川崎市議会に新たに2本の陳情を提出(10月上旬)

東京・神奈川連絡会は今月上旬、「JR東海に工事車両の走行ルートの詳細の公開と工事残土の貨物輸送の詳細説明を求める陳情」(182号)

「工事残土市内置き場の環境影響評価(アセス)の実施を求める陳情」(184号)を川崎市議会議長あてに提出した。これで連絡会としての陳情は4本、住民の陳情は3本となった。どの委員会に付託されるかは未定。

ここが問題！リニア新幹線 NEWS NO. 25  
発行:リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会  
天野捷一(中原・高津) 090-3910-8173  
矢沢美也(麻生・多摩) 090-6108-6568  
山本太三雄(宮前) 090-8775-1879